

キャラクター名
紅葉月(17)

プレイヤー名

シンドローム	ブラム=ストーカー	ワークス	マフィア	カヴァー	高校生
	ブラム=ストーカー		年齢	17歳	性別
オプション					
覚醒	憤怒	衝動	憎悪	初期侵食率	38%
出自	結社の一員	経験	消せない傷	邂逅	殺意：すべて

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	2	0	0			2	行動値	16
感覚	4	1	2			7	(非装備時)	16
精神	2	0	0			2	戦闘移動	21
社会	0	0	1			1	全力移動	42

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	6		RC			交渉	1	
回避			知覚			意志			調達	3	
運転：	2		芸術：			知識：			情報：裏社会	4	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
レッドテンペスト	射撃	14r+9		22		100↓ ダメージ+D
起源弾	射撃	15r+9		34		100↑ ダメージ+D
悪の華		0				自身へのダメージ時60点固定ダメージ

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
●コネ	
要人への貸し	
●ユニークアイテム	
レッドテンペスト	
呪われし者の銃	
ウェポンケース	
●その他	
サイドリール	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
申し子	P	N		
己の中の“憎悪”	P 尽力	N 嫌気		
血	P 執着	N 恐怖		
咲月両末	P 連帯感	N 無関心		
水森律果	P 庇護	N 隔意		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8 残り財産P: 6

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コメントレイト：ブラムストーカー	2	2	Xジャー	-	-	-	-	
効果：	C値- [Lv]							
滅びの一矢	7	2	Xジャー	武器	-	射撃	-	
効果：	射撃攻撃のダイス+ [Lv+1] HP2点消費							
紅の王	3	★	常時	至近	自身	自動	ピュア	
効果：	ブラム=ストーカーの効果によるHPの消費を- [Lv] する。							
ブラッドエンゲージ	5	4	Xジャー	-	単体	自動	120%/憎悪	
効果：	攻撃力+ [Lv×5] /ロイスを取得しているキャラクターのみ							
滅びの遺伝子	5	6	オート	視界	単体	自動	ピュア	
効果：	自身へのダメージ時、対象に [LV×10] 点のHPダメージ							
リミットブレイク	3	4	Xジャー	-	-	-	Dロイス	
効果：	組み合わせた判定のn%以下制限を無視して発動できる。 1リソ1回							
ハイブリーディング	1	6	オート	至近	自身	自動	120%	
効果：	I以外の使用回数回復、そのI以外の浸食率分のHPを失う。							
日常の代行者	★							
効果：	任意の数のエキストラ従者を作り出す。							
ブラッドリーディング	★							
効果：	対象の体液からさまざまな情報を読み取る							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「ほう、葉月のことを知りたいじゃと？
よいぞよいぞ、ちょうど僕も暇しておったところでの、多少長話となるが・・・まあ寄り世話話だと思って付き合っておくれな。

それじゃあ・・・そうさな。
葉月はなあ、あやつは生まれながらに、とある獣を飼っておつてのう。
獣の名は「憎悪」というてな。ようするに、心に巢喰う獣が、あやつの中にはおつたのじゃ。
時折飼主の言うこと聞かずに抜け出しては、己の思うままに暴力を尽くす、そりゃあ困つたやつじゃったよ。
普段は静かでおとなしい癖に、ひとたび起き上がれば力と破壊の限りを尽くすのじゃから、そりゃあ誰も手が焼いておつた。
もっとも一番手を焼いておつたのは葉月本人だったじゃろうかの。いつ出てくるかわからんアレが、いつ己の友に手をかけるかわかったものではなかったゆえな。
あの子も気が気でなかったじゃろう。実際それで多くの友を傷つけ、失っておつたよ。だが誰にも、どうすることもできなかった。
むろん我らも手を尽くした。方々を尋ね種を問わぬ様々な医者に、この獣の退治を願つた。
だが結果はみな同じじゃ。「心的ストレスによる突発的な人格障害」。それより先誰もわかるものはいなかった。
しだいに・・・、あの子は自分の周りから人を遠ざけ、学校にも行かず、屋敷外れの納屋に籠って一人であることを望むようになってしまった。
あやつは言うておつた。『もし獣が己の内から這い出てきたとしても、辛い目にあつたことのないように』とな。
強い子じゃ。それと同時に悲しいことじゃった。誰の手も借りることができないことを、あの子は幼いながらに理解しておつたのじゃろう。
そうしてどうしようもないまま、数年が過ぎていった・・・。

事が変わり始めたのは、あやつが高校生にはいった頃くらいじゃったか。
その頃になると葉月の内の獣もいくぶんか大人しくなつてきていた。まあ、あの子の苦心の策が効いたということなのじゃろう。
多少はマシになった症状を吉兆とみたあの子の両親は、あの子に再び学校に行くことを薦めた。
このままでは先にあの子の心それ自身が参ってしまうことを案じたのじゃろう。実際あの子は既にひどくやつれておつたゆえな。
半ば強引に学校に通わされるようになって・・・うむ、それからじゃな。「律果」ちう娘と親しくなつていったのは。